



地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト研修会（赤崎地域交流センター）

地域学校協働活動推進員や家庭教育支援チーム、地域交流センター長、学校関係者などを対象とした研修会が開催されました。今年度の地域連携教育に関する取組を振り返って、行政説明や小学校区ごとに協議が行われました。子どもと地域の方との関係は、あいさつよりも顔見知りになることが大事である、学校ボランティア同士の関わりがもてる場や機会をつくりたいなど、貴重な意見が聞かれました。また、指導助言者からの、小学生時代にボランティア経験を積んだ者は地域貢献意識が高まるという話に納得しました。



感謝のつどい（松原分校）

年度末が近づき、松原分校では、地域の方と山口東京理科大学の学生を含めた9人の学校支援ボランティアを迎えて感謝のつどいが開かれました。児童生徒の代表が、一年間安全に楽しく学べたことに対して感謝の言葉を伝えてから、修学旅行や現場体験学習の思い出、群読などを披露しました。また、じゃんけんのゲームでは、子どもたちの「やったあ」という歓声と笑顔が広がりました。ボランティアにとっては、児童生徒の手作りのプレゼントはもちろん、子どもたちの成長が何よりのプレゼントになったように思えました。



山口県立大学による食育指導（出合小学校）

出合小学校の1・2年生を対象にした食育指導が、看護栄養学部学生12名によって行われました。はじめに、ごはんのくにの『ゴハンジャー』が現れると、子どもたちは大喜びでわくわく感いっぱいの様子でした。食べ物が赤・黄・緑の3色に分けられることやそれらの働きについて学んでから、旬の意味を知り、赤くてつぶつぶのある春が旬の食べ物は何？などのビンゴゲームをしながら理解していました。野菜の旬を初めて知った、大根の旬は夏でなく冬だったのでびっくりした等、分かりやすく楽しい学習になりました。

